

項目	最低基準 ゼロエネルギー達成に向けて 最低限確保すべき基準	推奨基準 環境負荷の低減と快適性を 高次元で達成する基準	先導基準 環境負荷を極限まで抑える チャレンジ基準
■ゼロエネルギー化の取組 (エネルギーを大切に使う)			黄色い着色項目は県補助制度の 想定要件項目 (基本・加算)
□ 省エネルギー (少ないエネルギーで快適な住まい)			
外皮性能基準	0.4~0.5 (ZEHレベル)	0.3~0.4 (ZEH+レベル)	0.2~0.23 (G 3 レベル)
暖房負荷 (kwh/m ²) (参考指標)	省エネ性能の新たな指標として併せて検討が望ましい 県基準制定予定 (4年度以降)		
再生エネを除いた一次エネ削減目	20%以上	25%以上	30%以上
気密性能基準	1.0以下		
給湯設備の高効率化	潜熱回収型機器の設置		
換気	適切な換気計画、全熱交換器の設置 クールチューブによる地熱利用		
節水	節水水栓、節水水栓、雨水利用		
照明	原則LED		
昼光利用	適切な開口部による昼光利用 (単純開口部20%以上)		
H E M S の導入	新築時導入		
□ 再生可能エネルギーの利用 (積極的な創エネルギー)			
太陽光発電、木質パ ーバ活用	3 kw相当以上搭載	ゼロエネ達成量の搭載	ゼロエネ達成量の搭載 (家電製品を考慮)
地域特性や近隣条件を検証し将来計画も含め原則として設置			
【バイオマス燃料を主要な暖房熱源とする場合における、太陽光搭載発電容量の算定に当たっての取扱い】	① 一次エネ削減目標 (-20%~) 達成 (エアコン選択) ② 全館を1とした空調管理が可能な間取り (吹抜等) ③ ①②を満たした上で、必要発電量の算出に当たっては、 暖房一次エネに0.3を乗じるものとする		
太陽熱利用	太陽熱温水器 (熱利用を積極的に検討)		
			暖房利用
■ゼロカーボン化の取組 (ライフサイクルにおけるCO2の排出抑制)			
□ 建設時等に出来るだけCO2を排出しない			
県産材の利用	県産材 3 m ² 又は仕上材30m ² 以上	県産材6割以上	県産材 8 割以上
建材(断熱材等)のCO2削減の取組	特に負荷の高い建材の使用は控える		
木質パ ーバの活用 (再掲)	ペレット・薪ストーブ		
□ 出来るだけ長く使い続ける住まいづくり・災害への備え			
長寿命化 耐久性	主要構造部の耐久性		
〃 平面計画	世帯構成の変化に対応可能な間取の可変性		
〃 維持管理	設備・配管の管理・更新の容易性、 住まい手への対応 (維持管理履歴等)		
〃 高齢社会への対応	バリアフリー基準に適合 (車椅子で生活可能なこと)		
耐震性能の基準(在来軸組木造)	壁量1.25倍 (耐震等級 2 レベル)	壁量1.5倍 (耐震等級 3 レベル)	
レジリエンス性の確保	災害危険区域等の回避	災害危険区域等の回避 蓄電池の設置	
■建築計画に関する取組 (自立循環型住宅設計の取入れ等)			
配置計画	方位 (日射取得)、卓越風の把握		
日射取得 (冬)	南側に大きな開口部+日射取得型サッシ、 蓄熱の工夫		
日射遮蔽 (夏)	南側に長い庇又はベランダ、 夏場のよしず等設置 (住まい方)		
通風確保	主要な居室に2方向の開口部、通風経路の確保、 吹抜、引き戸、高窓、卓越風利用		
快適な空調設備	全館を1とした空調管理 (吹抜、ヒートショック防止)		
気候変動への対応 (酷暑)	躯体からの排熱の工夫、外付けブラインド		
景観・周辺環境への配慮	見かけ上の最高軒高 7 m以下 (豪雪地帯の落雪屋根等を除く。)		
外構・植栽計画	南側落葉中高木植栽、生態系への配慮		
伝統技能の活用 (左官壁、建具、畳、瓦)	積極的に取入れ		
多世帯同居	3世代同居対応、間取の可変性		
住まい方等	新たな働き方などへの対応、周囲とのコミュニケーション の工夫 (土間、オープンガーデン等)、DXへの対応		
その他	モニタリング等への「協力」		